

第11回小諸市廃棄物減量・再資源化等推進市民会議議事録

【日時】 令和5年5月23日（火）18時30分～19時30分

⇒18時10分～19時30分

【場所】 小諸市市民交流センター2階 会議室1・2

【出席者】:原委員、細谷委員、宇野委員、木内委員、依田委員、武者委員、佐藤委員、井出委員、下崎委員、清水委員、塩川委員、事務局

【欠席者】:村田委員

1 開 会

2 会長及び副会長選任

【事務局】

小諸市廃棄物の処理及び再生利用の促進に関する条例施行規則第22条で、「市民会議に会長及び副会長を各1人を置き、委員の互選とする。」と規定されている。

今回改めて、2年の任期が始まるため、会長及び副会長を選任したいと考える。

互選のため、委員のご意見をいただきたい。

【委員】

会長に細谷委員、副会長に木内委員が良いと考える。

【委員】

第10回会議まで、細谷委員が会長、木内委員が副会長で円滑に会議を進行していただいているので、引き続き細谷会長、木内副会長でお願いしたい。

【事務局】

委員お二人から、引き続き「会長に細谷委員、副会長に木内委員を選任する」意見が出たが、他の委員のご意見はどうか。

もし他に意見がなければ、細谷会長、木内副会長で引き続きお願いしたいと考える。

承認いただける方は、拍手をしていただきたい。

⇒出席した委員全員から拍手での承認が得られたため、会長に細谷委員、副会長に木内委員が選任された。

【事務局】

細谷会長、木内副会長で引き続き会議の進行等をお願いしたい。

3 会長挨拶

【会長】

会長に選任されたので、引き続き市民会議の進行等を行っていきたい。

ごみは、市民の生活に密着したテーマである。

市民の目線で、ごみ問題に関する意見を言い合えるのが市民会議である。

委員の方には、今後とも様々な観点から意見をいただきたい。

また、事務局にもお願いしたいことがある。

先程の委嘱式で、小泉市長から「小諸市が脱炭素先行地域に選定された」旨の話があった。

このような小諸市の情報を市民会議の委員にも共有していただきたい。

その他にも例をあげると、「3月の小諸市議会で太陽光に関する条例が可決された」等の環境問題に関する情報は、市民会議にも関係してくる重要な情報だと考える。

小諸市の行政がどのように動いているのか理解した上で、会議に参加すれば、ごみの減量対策等を考える参考になるのではないと思う。

また2年間の委員任期が始まるが、今後ともよろしくをお願いしたい。

4 会議事項

(1) 資源物回収ボックスについて

【事務局】

⇒資源物回収ボックスについて、資源物リサイクル業者への説明結果、事務局が考える実施方針案について説明し、委員の意見を求めた。

○概要

まず、前回市民会議で意見が出た『リサイクル業者がボックスの設置や資源物の回収、管理・運営の全てを実施できるのか』を確認するため、小諸市内の資源物リサイクル業者に訪問し、質疑を行った。

質疑の結果、『現状で実施することはできない。実施できない理由は、何点かある。まず、「①専用ボックスの設置(準備)費用について」である。古紙類、缶、古着等の数種類の資源物を回収するとなると、屋根付きで、ある程度大きさがある専用のボックスを用意しなくてはならない。古紙類もだが、特に古着については、雨に濡れると売ることができないので、屋根付きは必須である。簡易的な金属製のコンテナを造るだけでも、約50万円かかる。資源物回収の専用ボックスは、もっと費用がかかるのではな

いかと思う。次に、「②契約等のシステムについて」である。資源物回収ボックスを業者が設置から全て行うことになった場合、業者の選定方法はどのように決めるのか。競争入札なのか、随契なのか、何年契約なのか等のシステムが不明である。例えば、業者の決め方が、競争入札・1年契約で、入札を取れたとする。1年目はボックスを設置できていたが、2年目に違う業者が選定されれば、設備投資した専用の回収ボックスが無駄になってしまうことになる。高い費用をかけて購入したボックスが使えなくなり、さらに保管しておく場所も探さないといけないという問題が出てくる。最後に、「③費用対効果について」である。専用ボックスを設置して、どれくらい利用してもらえるのかという問題がある。専用ボックスを設置したが、なかなか資源物が集まらない状況になった場合、簡単にやめることができない。専用ボックスを設置して、どれくらい資源物がたまるのか、回収する頻度がどうなるのか等が不明である。お年寄り等は、資源物を遠くの回収ボックスに持っていくのは厳しいのではないかと思う。設置してどれくらいの利益が出るのか分からない状況での実施は難しい。』旨の回答を得た。

また、『近隣の軽井沢町を例にあげると、軽井沢町は、町内に10～15箇所ほど資源物を入れられるボックスがある。ボックスは、軽井沢町が設置し、資源物を回収する業者を入札で決めている。資源物の売買利益は、軽井沢町に入り、業者には、運搬費と委託費が入る。市町村がボックスを設置する費用を持ち、管理・運営を行い、業者は資源物を収集運搬するだけであれば、業者としては手を挙げやすい。』旨の参考情報も得た。

今後、専用の回収ボックスの製造費用の調査、業者の選定方法やシステム等の詳細の決定等、やるべきことが多いと感じた。

次に『実施方針案』についてである。

前回の市民会議でお伝えした実施方針案は、「回収ボックスの設置、管理・運営は市が行い、資源物の収集運搬のみ業者に委託する。」というものであった。

今回の実施方針案は、「業者に小諸市関係施設の数箇所に回収ボックスを設置してもらう。管理や運営は、全て業者に任せ、集まった資源物についても業者が売買等を行う。売買利益等は、全て業者の利益となる。市民からの需要があるようであれば、さらに設置場所を選定し、業者に新規の資源回収ボックス設置を依頼する。」という内容である。

小諸市の資源物リサイクル業者の実施は難しいとのことであったため、他に協力していただける業者を探していきたいと考えている。

※質疑応答、意見

【委員】

事務局からの説明があり、小諸市内の資源物リサイクル業者が実施することは難しいということが分かった。

イー・ステージ株式会社は、資源物のリサイクルを専門で行っている業者ではないが、小諸市の廃棄物処理業者ではある。

今ここで、実施できると即答はできないが、前向きに検討したい。

小諸市が脱炭素に向けて施策を進めていくので、小諸市の業者として出来ることは協力したい。

資源物回収ボックスを設置して、「事業として成り立つのか、継続性があるのか」が問題となってくる。

小諸市がどこまで責任を持ち、どこから業者に任せるのか等の実施方針、事業として継続していけるのか等の運営の仕組みについて、小諸市と連携して、話を進めていきたい。

【委員】

浅麓工業企業組合も小諸市の廃棄物収集運搬業者であるので、小諸市の方針にはできる限り協力したい。

SDGs等は、全国的にも話題の内容であり、資源物回収ボックスの設置についても前向きに検討している。

しかし、小諸市内の資源物リサイクル業者からの回答でもあったように、資源物回収ボックスを設置したが、赤字で運営できなくなる可能性があるので、すぐに手をあげることはできない。

事務局から話があった軽井沢町のような仕組みであれば、たくさんの業者が実施しやすいのではないかと考える。

実施方針や仕組みについて、さらに詳しく示してもらえれば、回答がしやすい。

後日、個別で話をさせてもらいたい。

【委員】

業者は、営利企業のため、利益にならないことを実施するのは難しいと思う。

利益を出しつつ、資源物のリサイクルが推進され、二酸化炭素排出量も削減されるという全てを網羅できる方法を考えていかなければならない。

今出た意見を踏まえて、事務局では今後どのようにするか考えはあるか。

【事務局】

イー・ステージ株式会社、浅麓工業企業組合も前向きに検討していただけるということで、とてもありがたい。

しかし、赤字になるようであれば運営は難しいという意見があるので、この問題を解決できるようにしなければならないと考える。

まずは、細かい内容を決め切れていないので、事務局で具体的な仕組み等を考えていきたい。

そして、業者に歩み寄り、業者から意見や要望を聴取し、業者の懸念事項をなくせるように努めたい。

資源物回収ボックスの設置で、業者に利益が出て、継続して事業として行っていけるようにできれば良いと考える。

今回、説明を行った資源物リサイクル業者以外に、資源物回収ボックスについて興味を持ってくれる業者はあると思うので、他の業者とも話をしていきたい。

【委員】

事務局にいろいろ調べてもらってよかったと思う。

業者に資源物回収ボックスの設置から管理・運営まで全てを行ってもらうのが良いという意見だったが、実際に業者の話を聞くと、簡単にできないということが良く分かった。

今後、事務局が他の業者に話をしたとしても、同じような回答になるのではないかなと思う。

業者が懸念している事項をどのようにすれば解決できるか、市民会議でも解決策を考えていければ良いと思う。

【事務局】

今後の方針等を考える上で、業者だけでなく、市民会議の委員の意見も参考にしていきたい。

【委員】

市民の立場としては、資源物を回収できるボックスがあったら便利だと思う。

しかし、事業者の立場だと、利益が出ないことには手を出さないのはもっともだと思う。

資源物回収ボックスを業者に全てやってもらうのであれば、ボックスの設置費用や利益見込みがどうなるのか等、具体的な数値を示す必要があると思う。

軽井沢町の実施方法は良いと思うので、軽井沢町に話を聞いてみてはどうか。

また、資源物回収ボックスを設置することにより、小諸市の統計上のごみの数値は減ると思う。

しかし、本来のごみの量は減っていないので、ごみの量を減らす方法についても考える必要がある。

どのようにして市民の意識改革を行うかについても考えていかなければならないと思う。

【委員】

業者に全てをやってもらうのは、難しいのではないかと思います。

業者の意見を聞くと、資源物回収ボックスの設置費用についての問題がある。

ボックスの材質が鉄等だと多額の費用がかかってしまう。

もし、材質にはこだわらず、木製のボックスで良ければ、ボックス作製に必要な木を無料で提供することができる。

木が必要であれば、言ってもらいたい。

【委員】

資源物回収ボックスの設置では、統計上の数値は減っても、本来のごみの量は減らないという意見が出た。

市民会議の役割は、全体的なごみの量をどう減らしていくかを考えることだと思う。

他に同じような意見はあるか。

【委員】

全て業者に任せるのであれば、費用等が分かるデータや数値は必要になってくると思う。

また、小諸市内でも高齢化が進んでいるので、資源物回収ボックスの設置場所に古紙類を持っていくのが難しい人がいると思う。

本来のごみを減らすという観点に立ち戻った方が良いと思う。

【委員】

この資源物回収ボックスの話は、燃やすごみ指定袋に混入する資源物をリサイクルするために、資源物を捨てられる機会・場所を増やす1つの案として出てきたものである。

そして、その資源物回収ボックスの設置や運営を誰が行うかについて、深掘りをして、現在に至る。

燃やすごみに混入する資源物をどう取り除くかからのスタートなので、議論の流れは間違っていないと考える。

確かに、資源物回収ボックスを誰が設置・管理・運営するのかについては、小諸市と業者で深掘りすべきことなので、市民会議で議論する内容ではないかもしれない。

今後は、小諸市と業者が話し合って進めた内容について、市民会議で報告して、意見等をもらう形にする方が良いと考える。

【委員】

軽井沢町が設置している資源物回収ボックスがどのようなものなのかが不明である。

小諸市内のリサイクル業者が言っている50万円以上かかる高額な専用ボックスと同じものを軽井沢町が設置しているのか比較ができない。

また、市民の利便性のためにボックスを設置して、分別を促すのは良い案だと思うが、市が費用をかけてまでやるべきことなのか、分別の効果があるのかが分からない。

方法論については、市民会議で話し合うべきことではないという意見があった。

もし、市民会議で方法論についての議論をするのであれば、様々なデータや情報をもらえると意見を出しやすいと思う。

【委員】

様々な意見が出たが、今回の資源物回収ボックスの設置について、行政で予算化して、実行していくのか。

それとも、市民会議で意見があった内容について、少し検討してみようという程度の考えなのか。

生活環境課として、どのくらい本気でやっていくのか。

行政としての覚悟はどれくらいあるのかを教えて欲しい。

【事務局】

予算は限界があるので、厳しいところがあるが、民間の力をお借りしながら実行できれば良いと考える。

資源物回収ボックスの設置による事業の効果やどれくらいの資源物が集まるかについて検討した上で、実施するか実施しないかの判断をしていきたい。

これまで実施してきた「ごみの減量や分別についての周知」は、継続して行っていく。

今回検討している方法論についても同時に考えて実行していきたい。

【事務局】

最後には、市としての覚悟、本気度が重要になってくると考える。

予算を取り、ある事業に費用を使うと、他の予算が削られるということになる。

他の予算とのバランス・整合性を取らなければならない。

もちろん、本気でなければ、予算を取ることもできない。

データが不足しているので、判断できない部分が多い。

今回の資源物回収ボックスの設置を実施するのであれば、必要なデータ集めを行い、そして本気でごみの減量に取り組んでいく覚悟が必要だと考える。

貴重な意見として受け止めさせてもらい、再度方針等について練り直していきたい。

【委員】

当初、小諸市が資源物回収ボックスの設置・管理・運営を行い、業者が資源物の収集運搬を行うという案であった。

そして、全部業者に任せた方が良いのではないかという意見が出て、方法論について議論してきた。

その結果、「業者は未知の領域には、リスクを冒してまで挑戦はしてくれない」ということが分かった。

リスクを減らしつつ、実現できる解決方法については、早めに導き出した方が良いと思う。

市民会議では、本質的な部分、ごみの減量についての議論できるようにしていかなければならない。

これからのごみ減量のストーリーについて、事務局はどのように考えているか。

【事務局】

資源物回収ボックスについては、なるべく費用をかけずに実施できるように、業者と話を詰めていきたい。

以前の市民会議で、集積所にポスターを設置したらどうかという意見があった。

ごみの分別・資源化を図るために重要なことだと思うので、ごみ減量アドバイザーや衛生委員の協力を得た上で、実施できるように進めていきたい。

その他の方針については、次回以降の市民会議でお伝えできるようにする。

【委員】

静岡県の資源回収ボックスについての話を聞いた後、静岡県の実施状況をインターネットで調べてみた。

静岡県内に数多くボックスが設置されており、綺麗に管理されていて驚いた。

静岡県の業者のホームページを見ると、「資源回収ボックスが必要な方は連絡ください。設置に行きます」等の記載があった。

静岡県のように資源回収ボックスが盛んな地域の自治体や業者にも連絡してみたら良いのではないかと考えた。

横浜市や松本市の実施方法とは違う話を聞けるのではないかと考える。

業者と小諸市で資源回収ボックスの話を進めてもらい、ときどき市民会議で状況を報告してもらえるとありがたい。

【委員】

議論が同じ内容を繰り返しているだけで先に進んでいない。

議論するのに必要なデータが足りていないので、深いところまで議論ができていない。

資源回収報奨金交付制度で実際に区や PTA に交付している報奨金の額を見ると、たくさんの報奨金を支払っていることが分かる。

区や PTA の活動費用の大部分は、資源回収による資源物の売却利益と報奨金だと思う。

資源物回収ボックスを設置して、各区や PTA の資源回収の回収量が少なくなり、売却利益や報奨金の額が下がれば、苦情がくる可能性がある。

資源物回収ボックスを設置する案については、悪くはない。

しかし、アイデアを出して、それについての議論をするだけで、全体のストーリーが分からない。

統計上のごみの数値を減らすという見せかけだけの内容を議論するのは意味がない。

ごみ自体を減らすことについて議論しなければならないと考える。

市民会議委員の2年の任期が終わり、これからさらに2年の委員任期が始まる。

このタイミングで、ごみ減量のための全体のストーリーについて示して欲しい。

【委員】

事務局の案では、小諸市内の方面ごと、5箇所程設置することになっているが、一度にボックスを5箇所設置するのは難しいと思う。

1箇所程の少数で、試しにやってみる方が良いのではないかと考える。

資源物を出せる場所が少なくて困っている区があると思う。

このような区を調査してみて、その区に試行的に資源物回収ボックスを設置し、様子をみるのが良いと思う。

小諸市全体で一度に実施すると、予算等で難しい部分があるので、小さい範囲で実施する方が進めやすいと考える。

また、市で予算を取るのが難しいのであれば、クラウドファンディング等でお金を集める等の方法があるのではないかと考える。

【委員】

試行でも良いから実施してみたらどうかという意見が出た。

資源物回収ボックスについては、市民会議で長時間議論したので、何らかの形になるようにしてもらいたい。

そして、まずは、全体のストーリーを示して欲しいということである。

資源物回収ボックスも含めて、ごみ減量のための全体のストーリーについて考えてもらい、次回会議は全体のストーリーを踏まえての議論をしたいと考える。

【委員】

小諸市内だとカインズ小諸店に資源回収ステーションが設置されている。

佐久市や東御市等の近隣市町村のスーパーにも設置されている。

このように既に設置されている資源回収ステーションについて調査し、メリットやデメリットが分かった上で、提案してもらいたい。

【事務局】

資源物回収ボックスの設置については、小諸市内のリサイクル業者だけでなく、小諸商工会議所にも訪問し、説明を行っている。

小諸商工会議所からも、カインズ小諸店等に設置されている資源回収ステーションについて調査してみたらどうかという意見があった。

企業秘密で教えてもらえない可能性があるが、設置している業者等に連絡し、設置費用や利益等について、出来る限り調査を実施したい。

【委員】

資源物回収ボックスについては、実施した方が良いと考える。

詳細を詰めないといけない部分はあるが、これ以外に有効な案が思いつかない。

燃やすごみに混入する古紙類等の資源物を減らすには、一番効果が出る案ではないかと思う。

資源物回収ボックスを設置して、継続して運営することで、いずれ結果が出ると思うので、是非実施した方が良いと考える。

【委員】

これまでは、事務局が提案した曖昧な案について、市民会議で実施方法を議論してきた。

これからは、事務局が実施方法等の詳細まで練った案を、この市民会議で報告・共有してもらう形でお願いしたい。

【委員】

障がい者施設等で、雑誌・雑紙や段ボールを集めているところがある。

このような施設に協力してもらう等、資源物回収ボックスの前にやれることはあるのではないかと考える。

【事務局】

長野市や松本市では、社会福祉協議会が主体となり、障がい者施設・作業所の業務として、資源回収を実施しているようである。

事務局でも、障がい者施設・作業所に対しても、資源物回収ボックスについての説明を行うという案が出ていた。

施設の方たちの協力も得られたら良いと考える。

【委員】

小諸市社会福祉協議会は、障がい者の働く場所の提供を行う業務は行っていない。

別の団体が行っていると思うので、その団体を調べてもらい、話をする方が良いと考える。

【委員】

以前、小諸市内の区で資源物を回収するボックスを設置しているところがあると聞いた。

このボックスは、どれくらいの大きさで、どのような経緯で設置されたのか。

そして、誰が設置費用を支払い、運営はどのようにされているのか。

また、静岡県で設置されている資源物回収ボックスは、1つ50万円以上かかる高いものなのか、分かれば教えて欲しい。

【事務局】

私が住んでいる区では、縦2メートル、横2メートル、奥行き8メートルくらいの大きさの資源物を入れられるコンテナがある。

普段は鍵が閉まっているが、月に1回鍵が開けられ、雑誌・雑紙、新聞紙、段ボールを入れることができる。

コンテナの鍵が開くのは、月に1回実施している道路清掃日である。

コンテナを設置したのは、私の住んでいる区であり、コンテナの購入費用は区で支払っている。

コンテナを設置した経緯は、集まった資源物を業者に売却して、区の活動費用にするためだと聞いている。

市内には、私の住んでいる区と似たような方法で資源回収を行っているところがあると思う。

【委員】

区費を下げるために、資源回収を積極的に行っている区が何個かあると思われる。

【委員】

静岡県で設置されている資源物回収ボックスの値段の関係だが、インターネットで調べた時に見つけたのは、1個50万前後のコンテナであった。

フックロール車というコンテナを引き上げることができる特殊なトラックがある。

フックロール車に付いている機械でコンテナを引き上げ、そのままコンテナが車の荷台になる。

コンテナを資源物回収ボックスとして設置し、コンテナ内に資源物が溜まったら、フックロール車でコンテナを引き上げて、資源物を回収するという流れになるようである。

フックロール車の専用コンテナであるため、値段が高いのだと思われる。

【委員】

今回出た意見を参考にして、次回に向けて準備をしてもらいたい。

5 報告事項

(1) クリーンヒルこもろでの埋立ごみ火災の発生について

【事務局】

全国のごみ収集車やごみ処理施設で、火災が多発している。

そして、令和5年5月11日(木)にクリーンヒルこもろでも火災が発生してしまった。

火災が発生したのは、埋立ごみの保管場所で、前日に回収した埋立ごみから出火し、室内に煙が充満した。

出火原因の特定はできなかったが、おそらくリチウムイオン電池等の充電式電池、ライター等が原因と考えられる。

埋立ごみに出火の原因となるリチウムイオン電池等を入れないように、市民に対して広報や啓発活動を実施していきたい。

(2) 小諸市ごみ・資源分別ガイドブック（第4版）の作成について

【事務局】

小諸市ごみ・資源分別ガイドブック(第4版)を作成した。

令和4年9月に第3版を作成したが、今回さらに50品目程加除訂正を行った。

表紙にカレンダーアプリ用「ごみ・資源収集カレンダー」の QR コードを入れたり、色を変えて見やすくなるように変更した。

第3版の在庫が終わり次第、第4版を市民に配布する予定である。

(3) カレンダーアプリ用「ごみ・資源収集カレンダー」について

【事務局】

小諸市のホームページ上に、ごみ・資源収集カレンダーのアプリ用データを公開した。

圧縮ファイルをダウンロードし、ics ファイルを「グーグルカレンダー」や「ヤフーカレンダー」等のカレンダーアプリに取り込むことができる。

データを取り込むと、「カレンダーアプリにごみ・資源の収集日を表示させる」、「ごみの排出方法の詳細を確認できる」、「アラームでお知らせすることができる」等の便利な機能が利用できる。

また、スマートフォンのスマートスピーカー等と連動させると、「アレクサ」や「シリ」が言葉で教えてくれる機能が使える。

ごみの出し忘れ防止や分別方法の周知を目的としている。

是非ご利用いただきたい。

(4) ごみの排出量について（令和 3 年度）

【事務局】

令和 5 年 4 月末に長野県から「令和 3 年度の市町村別、1 人 1 日当たりのごみの排出量」が公表された。

小諸市は、52 位で、807g（内訳：生活系ごみが 596g、事業系ごみが 211g）であった。

長野県の平均は、800g のため、小諸市は県の平均より少しごみの排出量が多い。

前回（令和 2 年度）の小諸市の結果は、55 位、813g だったため、少しごみの量が減っている。

ごみの減量を考える上での基礎資料となるので、ご確認いただきたい。

(5) その他（次回日程等）

○ ごみゼロの日活動 令和 5 年 5 月 28 日（日）

○ 第 12 回市民会議 令和 5 年 7 月 25 日（火）18 時～

【事務局】

5 月 28 日の日曜日にごみゼロの日の活動を実施する。

ごみゼロの日の活動は、平成 26 年以来の活動で、10 年ぶりに実施する。

飯綱山公園のごみ拾いを行い、その後、クリーンヒルこもろの見学会を実施する。

市民会議の委員の皆さんにも是非ご参加いただきたい。

【事務局】

次回、第 12 回市民会議は、7 月 25 日の火曜日に実施したいと考えている。

また、前回の任期中は、火曜日の午後 6 時から開催することになっていたが、これからの 2 年間の任期も火曜日の午後 6 時からの開催で良いか確認したい。

⇒ 委員の承認がとれたため、火曜日の午後6時から開催することとなった。

【事務局】

会議の冒頭で会長から「小諸市の情報を市民会議委員にも共有して欲しい」という意見をいただいた。

資料等はないが口頭でお伝えさせていただく。

1つ目は、『太陽光条例』についてである。

3月の市議会で議決いただき、7月から施行される。条例の中身で、特徴的なのが3点ある。まず「①エリア設定」である。太陽光パネルを設置できない禁止区域があるということであり、災害のおそれがある場所等が禁止区域にあたる。次に「②合意制」である。太陽光パネルを設置する地域の住人の合意が必要になってくる。今までは、住人に説明をした事実だけで良かったが、今後は、合意がないと太陽光パネルを設置することができない。最後に「③市の許可制」である。これまでは、届出制であり、市に太陽光パネルを設置する旨の届出をすればよかった。今後は、小諸市の許可がないと設置することができないようになる。

2つ目は、『脱炭素先行地域』についてである。

日本には1700程の市町村がある。この中から、脱炭素を先行的に目指すモデル地域として、環境省が100箇所ほどの市町村を選定しようとしている。そして、令和5年4月28日(第3回選定)で、この脱炭素先行地域の1つに小諸市が選定された。長野県内だと、松本市、飯田市、生坂村、小諸市の4箇所が脱炭素先行地域に選定されている。選定されると、国から継続して支援を受けることができ、財政支援として交付金をもらうことができる。小諸市は、コンパクトシティ政策を推進しているが、これと脱炭素を結び付けていく予定である。中心市街地の建物に太陽光パネルを設置する、デマンドタクシーや公用車を電気自動車にしていく等して、ゼロエネルギー化を目指す計画である。詳細については、広報こもろ6月号を確認いただきたい。

以上、小諸市の行政情報についてお伝えさせていただいたので、承知をお願いしたい。

今後も市民会議の委員の方にも、随時情報を共有していきたいと考えている。

【委員】

早速情報を共有していただきありがたい。

テレビで、太陽光条例に違反した業者があり、裁判になるというニュースを見た。

国が法律で太陽光に対する規制をかけていないので、市町村が条例等で規制をかけるしかない状況があるようである。

一方で、脱炭素を目指すためには、太陽光パネルは必ず必要になってくるので、な

かなか難しい問題だと思った。

このような情報は、環境問題を考える上で重要なことだと思うので、様々な情報に注目していただければと思う。

6 閉 会